



▲来場者全員による市民歌大合唱 指揮者：白澤玲子さん ピアノ伴奏者：柳寿枝さん

市制60周年を迎えて 新たなスタートを誓う日に

枕崎市長 瀬戸口 嘉昭



枕崎市は、戦後の混乱、台風災害が相次いだ昭和二十四年（一九四九年）九月に敢然として市制を施行し、鹿児島県で戦後初、四番目の市として誕生しました。

以来、太陽と黒潮の恵み、肥沃な土壌の恵みの中、先人たちの優れた先見性、不屈の自立精神、たゆまぬ努力、ふるさとを想う情熱をもって、数々の苦難・難題を乗り越え、今日の枕崎を築き上げ、市制施行六十周年を迎えることができました。

今年九月六日、これまでの六十年を振り返るとともに「新たな歴史と発展の基点」として、枕崎市制六十周年の記念式典を開催いたしました。また記念事業の一環として、プロ野球名球会・OBクラブの「ドリーム・ベイスボール」、「夏期巡回ラジオ体操」、そして「京セラ名誉会長 稲盛和夫氏特別講演会」、NHKの「三枝一座がやってきた！」の公開録音、さらには「枕崎いっさいがっつり祭・秋の産業まつり」など、盛大に開催できました。また、記念式典当日の記念アトラクション「60番目のまくら貝」は、本市の多くの文化団体や小・中・高校生の方々のご協力をいただき、盛大に実施できましたことは特筆すべきことであり、市民の皆様とともに喜びたいと思います。

この六十周年を新たなスタートとして、行政・議会・市民がしっかりと連携し、建設的なありある議論を尽くし、枕崎市の活性化、市民福祉の向上に向けて邁進してまいりますので、市民の皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

枕崎市制60周年

記念式典を盛大に開催

9月1日、枕崎市が市制を施行して60周年を迎え、9月6日、記念式典が市民会館で盛大に執り行われました。

瀬戸口市長の式辞の後、国会議員、県議会議員、市議会議員や、ブラジル枕崎会の永留秋人会長から祝辞をいただきました。

市政功労者表彰では、138の個人・団体に感謝状が贈

られました。

作文・論文発表では、比志島遥さん（枕崎小6年）と久保雄大君（枕崎中2年）が堂々とした立派な発表をしました。（全文は6・7ページに掲載）

式典のフィナーレは、来場者全員による市民歌大合唱で締めくくりました。

今回、式典の司会進行は、栗野渉太君（鹿水高3年）と、

市民歌

沖の 立神 陽に 映えて

夢 おおらかに 潮 満つる

明るい 自治の 旗の もと

平和に 生きる しあわせを

築かん われら 枕崎

内与詩守 作詞
裏手重則 補作詞
田中義人 作曲



市民憲章

（昭和五十四年九月一日制定）

- 一、わたしたちは、心もからだも 健康な市民になります。
- 一、わたしたちは、お互いに きまわりを守る市民になります。
- 一、わたしたちは、こぞって 勤勉な市民になります。
- 一、わたしたちは、だれにでも 親切な市民になります。
- 一、わたしたちは、すすんで 教養を高める市民になります。



■市木 ツバキ
（昭和54年9月1日制定）



■市花 キク
（昭和54年9月1日制定）



シンボルマーク
（平成9年4月制定）

全体のイメージとして青い海と太陽、豊かな自然を表現。Mは枕崎市のイニシャルである〔M〕、また遠く坊津の島影を表し、赤丸は波間に浮かぶ夕日（かつお）を表現。水産業の盛んなまちを表している。



市章
（昭和24年9月制定）

枕崎市の紋章は、かつおの尾ひれに、まくらざきのマとMを組み合わせ、水産業を基盤にして発展する市勢を表象したものです。

片平萌美さん（枕高2年の二人が担当し、高校生らしくはつらつと大役を務めました。また当日は、会場入口で枕崎写真会による「まくらざき今昔写真展」。国光公園では、食を考える会による「食育ワークショップ」などが催され、市民協働で式典を盛り上げました。

式典終了後には、記念アトラクションとして創作劇「60番目のまくら貝」が上演されました。（関連4・5ページ）